

湯河原ロータリークラブ



WEEKLY REPORT

ロータリーを实践し
みんなに豊かな人生を

第 2519回 例会
平成 25年 12月 20日 (金)
天候 晴れ
合唱 それでこそロータリー
四つのテスト

会 長 渡辺 久恭

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

幹 事 石田 浩二

例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

昨日、会長幹事会に石田幹事と出席して来ました。
地区クラブ奉仕委員会から「新会員の集い」ご登録の
お願いがありました。

1. 規定審議会への立法案提出について
2. ポール・ハリス・ソサエティ入会のすすめ
3. 2016~17年度ガバナーノミニージェグネー
候補者について (秦野RC佐野様)
4. ロータクト年次大会のお知らせ
(2014年2月16日)
5. 2月23日ロータリー創立記念日における広報活動に
ついて
6. 日台親善会議について
7. 2014~15年度地区組織について
8. フィリピンの台風及び大島の山崩れへの支援金に
ついて
9. 財団寄付/米山寄付について
10. IM について
11. 2014~2015年度青少年交換学生について
12. その他
 - A. 第5回チャリティーゴルフ大会開催要項
 - B. 2013年10月末 出席報告・会員数
13. 次回1月会長幹事会の開催の件
1月16日木曜日から1月24日金曜日に2013
-2014年度 国際ロータリー出版物日本語版
注文書用紙 (抜粋)

幹事報告

国際ロータリー日本事務局より

1. 手続要覧 2013年(日本語版)が発行されます
発行予定日などの詳細は2014年1月以降となります
が事前注文を受け付けます。注文用紙を添付致しま
したので記入のうえ、お送り下さい。

ガバナーより

1. 1月のロータリーレート 1ドル102円
2. 2016-2017年度ガバナーデジグネート確定宣言
期日までに対抗候補者の推薦がありませんでしたの
で、秦野ロータークラブの佐野英之の会員が、2016-2017年
度ガバナーデジグネートに確定しました。
3. 第25回ローターアクト年次大会開催案内及び登録
協力をお願い

日時: 2014年2月16日(日)15:00~20:00

場所: 鈴廣かまぼこの里「鈴の音ホール」

登録料: 5,000円(本大会+懇親会一括) 登録

締切: 2014年1月17日(金)

湯河原温泉観光協会より

1. 湯河原町経済三団体新年合同賀詞交歓会の開催に
ついて

日時: 2014年1月30日(木)17:00 受付

場所: 湯河原観光会館 大会議室

回答期限: 2014年1月16日(木)

報告事項

1. 本日午後6時より「うおき」にて忘年懇親会が開催
されます、ご出席される方は時間までにご参集
下さい。

出席報告	ゲスト 0名	ビジター 0名	会員 24名
	欠席 4(免除者 0名)		出席率 83.33%
	前回の修正出席率 95.83%	前々回の修正出席率 82.61%	

スマイルBOX

会員誕生日 細谷信雄君（12／20）

結婚記念日 渡辺久恭君（12／20）

土屋一弘君・高知尾朝行君

真鶴の冬の花火大会が無事終了いたしました。

石倉幸久君・高知尾朝行君・室伏学君・石田浩二君

冬ほたる in 万葉が始まりました。

石倉幸久君・高知尾朝行君

地域振興券の第2回目の発売も盛況の内に

完売しました。

西山敦君 五所神社の歳の市が無事終了しました。

卓話

萬年山城願寺と土肥氏

山本明峰君

湯河原町城堀の城願寺は、平安時代より真言密教の寺院であったものを、約九百年前、この地の豪族土肥次郎實平が、萬年の世までも家運が栄えるように「萬年山」と号して持仏堂を整えたことから、土肥實平と長男彌太郎遠平が開基とされている。室町時代初めに臨濟宗大鑑禅師の弟子、雲林清深を招請開山として再興され、江戸時代初めに大州梵守が中興開山となり、曹洞宗に改め現在に至っている。

治承四年（一一八〇）八月十七日、平清盛の政権全盛のもとで、伊豆蛭ヶ島に流されていた源頼朝が源氏再興の旗挙げをして、伊豆国目代であった山木郷の平兼隆を討ち、その勢いで鎌倉を目指して土肥實平を頼り、二十三日には城願寺の柏槇の前を出陣した。しかし、大庭景親の率いる関東平氏の軍に、石橋山で敗れた頼朝らは、北から押し寄せる大庭軍と南からの伊東祐親軍に挟まれる中、二十八日に真鶴の岩ノ浦から房総に向って舟出するまでの五日余を、箱根外輪山の南一帯の峰や谷を渡り洞窟に隠れるなど九死に一生を得る逃避行を続けた。気弱になる頼朝を庇護したのは、土肥實平と妻ら一族であった。舟出後、頼朝と六人の武将は安房国に上陸、下総国から武蔵国へ、次々と関東の武将を味方に付けながら相模国鎌倉に入った。實

平・遠平父子は頼朝を支え、源義経のもとで、富士川・三草山・鶴越・屋島の合戦の平家追討中に、實平は山陽道備前・備中・備後の総追捕使に、壇ノ浦での平家滅亡後には、長門・周防の総追捕使に任ぜられるなど、頼朝の信頼は厚いものがあった。鎌倉幕府成立後も、奥州平泉の藤原氏征伐にも功をあげて、安芸国沼田荘を領有して赴任したが、建久元年（一一九〇）には逝去し、遺骸は鎌倉へ運ばれ頼朝と対面した後、遺言により土肥郷へ葬られたという。あとを継いだ遠平は、本領の土肥郷を嫡男の先次郎維平に土肥宗家として所領を相続させ、下った沼田荘では、平賀義信の子を養子に迎えて小早川景平と名乗らせて相続させることにした。しかし、建保元年（一二一三）血縁関係にあった和田義盛の乱で、惟平が和田軍に加わり処罰されたが、遠平は戦いに無関係とされ、土肥郷と沼田荘を引き続き所領とした。遠平は、建久十年の頼朝逝去により仏門に入り道慶と号し、逝去したあと、遺骸は土肥に送られ葬られたという。（實平・遠平の生没年・場所・墓には異説がある）

この後、土肥實平・遠平・維平と続いた土肥宗家は、鎌倉幕府の政権から遠ざかり、越中・出羽など各地へ離散していき、安芸国の大名で豊臣秀吉の五大老となる小早川氏に、武家政治創世を担った名族としての家名が伝わることになった。

城願寺 史蹟

○五輪塔・宝篋印塔など多種の墓石が群存する土肥一族の墓（県文化財）

○土肥實平手植えという樹齢九百年、目通り六m、高さ二十mの柏槇（びやくしん・国天然記念物）

○七騎堂に、源頼朝と土肥實平、安達盛長、土屋宗遠、岡崎義實、新開忠氏、田代信綱の七騎武者像